

令和3年度 第8回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年11月9日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午前 9時57分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午前 11時40分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 福里 由加	国体推進課長
	欠席： 田之上委員	

会議要旨

1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第8回教育委員会定例会を開会した。
議案第16号、議案第17号は、教育長から、非公開で審議する旨の発議があり全会一致で議決された。

2 令和3年度第7回定例会会議録の承認

承認

3 議事

報告第29号 垂水市スポーツ推進計画運営委員会設置要綱の制定について

報告第30号 令和3年度垂水市一般会計補正予算(第9号)案についての市長への意見申出について

議案第16号 垂水市教育支援委員会の答申について

議案第17号 令和3年度社会教育功労者の決定について

4 その他

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第29号 垂水市スポーツ推進計画運営委員会設置要綱の制定について</p>	<p>垂水市スポーツ推進計画運営委員会設置要綱について、教育長の臨時代理により制定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第30号 令和3年度垂水市一般会計補正予算（第9号）案についての市長への意見申出について</p>	<p>令和3年度垂水市一般会計補正予算（第9号）案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第16号 垂水市教育支援委員会の答申について</p>	<p>垂水市教育支援委員会の答申を受けて、児童生徒の望ましい措置を決定しようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	承認
<p>議案第17号 令和3年度社会教育功労者の決定について</p>	<p>垂水市社会教育関係表彰規程に基づき、令和3年度社会教育功労者を決定するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	承認

議 事 内 容 等

3 議 事	<p>報告第 29 号 垂水市スポーツ推進計画運営委員会設置要綱の制定について</p>
社会教育課長	垂水市スポーツ推進計画運営委員会設置要綱について、教育長の臨時代理により制定したことを報告するとともに、その内容について説明。
田原委員	附則で 10 月 1 日施行とした意図は何か。
社会教育課長	10 月からすでに委員の選定を行っている関係で 10 月 1 日とさせていた だいた。
教育長	すでに 1 回目の話し合いは行ったのか。
社会教育課長	まだこれからである。今月を予定している。
教育長	最初が肝心なので、最初で目的、意図、タイムスケジュール的なものを 丁寧に説明し、いい計画をつくっていただきたい。
	<p>報告第 30 号 令和 3 年度垂水市一般会計補正予算（第 9 号）案についての市長への意 見申出について</p>
教育総務課長	補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回 答したことを報告するとともに、その内容について説明。
田原委員	G I G A スクールサポーターは何人か。
学校教育課長	1 人である。
田原委員	日数はどれぐらいか。
学校教育課長	<p>直接来ていただくのは 1 週間に 1 日だけで三か月間の雇用である。現在、 I C T 支援員を 1 人、200 日間の雇用で、毎日各学校のどこかに配置して いる。その I C T 支援員は学校の実際の機器に関して仕様とか授業改善に ついてのアドバイスをする役回りであるが、今回のサポーターについては、 週に 1 日は来ていただけるが、実際に機器に不具合が生じた場合に、現場 に出向かなくても外（鹿児島市）から遠隔で調整できるということである。 本来は指導主事の業務とは思いますが、指導主事の業務が過剰になっている ので、それをサポートしてもらうためにも三か月雇用という形で、今回、 国から半分の補助があるということもあり財政課に相談し、配置を決定し ていただいたところである。今後、端末を使用する際の仕様やいろいろな 決まり事を作成していただいて、学校には 4 月からしっかり運用していただ きたいと考えている。</p>
田原委員	遠隔サポートもできるのか。

学校教育課長	はい。そういうこともできるということである。
教育長	少し、補足すると一番の課題が情報モラルである。保護者が一番心配しているのがこの問題であり、本当に学習目的で正しく使っているのかというところをルール化して、きちんと家庭にも浸透させ保護者にも理解してもらおう。勿論、使用する子供たちにも理解してもらった上で使わせるというところを徹底していきたい。このGIGAスクールサポーターには、そういったものもつくり上げてもらいたい。本来であれば指導主事の仕事なのであるが、非常に忙しい状況なので、折角こういう制度があって、しかも詳しい人たちなので、この際、いいものを作成してもらい、本市のGIGAスクールが更により方向に推進できるようにとの思いを込めて、この事業を大いに活用したいと思っている。
田原委員	水之上体育館の漏電は、かなりの予算が掛かったが。
社会教育課長	そのとおりである。どうしても漏電箇所が分からなかったので、今回、細部まで見ていただくために業務委託で補正を計上させていただいた。
田原委員	もう大丈夫なのか。
社会教育課長	いや、これからである。12月の議会で議決されてからになる。年明けになると思う。
教育長	垂水小学校のプール更衣室がずっと気になっていた。今度の修繕は年度をまたぐ形にはなるが、今年度は外を、次年度になったら中を修繕する。ようやく私の思いが形になったと思っているところである。
福里委員	教室で着替えるのが当たり前だと思っていた。
教育長	そういうことで今回、それを整備することにした。来年夏のプール開きには間に合うように指示してある。
教育総務課長	本年度でまず外装を整備し、次年度予算で内装、つまりドアの取り替え、建具の修繕など2か年に渡るが整備を行っていく。一括しての工事となると工期が取れずにプールの授業にも支障がでてくる。また、膨大な金額がかかってしまいますので、このようなやり方で整備を行うことになった。来年のプールの授業には間に合わせる計画で進めていきたいと考えている。
葛迫委員	小・中学校の水道光熱費がすごく上がっている原因というのは、コロナ禍で窓を開けっぱなしにしての空調代とかは理解できるが、水道代が上がるというのは、自宅の水道代も上がっているのであるが、市の水道代が上がったわけではないのか。
教育総務課長	それはないと思うが、一番の原因は協和小学校のプール代であった。頻

	<p>繁に水の入れ替えをしたのか、前年度のプール会議で回数も決まっていると思うのであるが、それを理解していなかったのか、そこが一番大きかった。電気代はおっしゃるとおり、換気をしながらの冷房で普段より上がったのではないと思われる。おそらく学校は通常通りの使い方をしていたと思うが、これもコロナの影響があるのかなと思っている。</p>
葛迫委員	<p>1年間でこれだけ上がったということか。</p>
教育総務課長	<p>そうである。4月からこれまで使用した割合をもとに計算し、3月までの不足分が金額にして200万円ということである。</p>
教育長	<p>水道光熱費は毎年増額補正するが今年度は額が大きい。減額にはなかなかならない。</p>
葛迫委員	<p>教職員住宅は2棟全部埋まっているのか。</p>
教育総務課長	<p>単身用教職員住宅は全部で3棟あるが、錦町に2棟あって、どちらも3、4人ずつ住んでいる。3棟のうち一番新しい住宅が錦町のⅡ号棟であるが、その一階部分の四部屋を来年来られる新採の先生方のために整備するものである。もう築何十年も経つがこれまで一度も大きな金額を投資して補修をしたことがなかった。何か壊れる度に修繕という形で凌いできたのが実情である。Ⅱ号棟が一番新しい住宅なので、今回一階部分をしっかり補修を行い、将来はⅡ号棟を中心に残していこうという計画で来年の四月の転入時期に間に合うように整備を行うものである。</p>
教育長	<p>やはり、10年に一度は補修をやっておくべきだった。かつては教育委員会内に技術職がいたようであるが、現在はいないので、そう言う意味での気づきが少なくなってしまうていた。10年ごとに補修をやっていけば、よい状況でバトンタッチできたはずである。しかも今、新採をできるだけ市の教職員住宅に入れようとしているので、やはり自分が住みたいと思うような住宅に住ませたいものである。住居は仕事をしていく上で大事な部分であるので、よい状況の中で快適に住んでもらいたいと思っている。そういう意味で今回整備を行おうとするものである。来年度もまた新採を数名予定しているので、自信を持って勧められる状況にしたいと思っているの補正である。</p>
葛迫委員	<p>部屋の中だけの補修か。</p>
教育長	<p>そうである。中を快適にするということである。</p>
学校教育課長	<p>議案第16号 垂水市教育支援委員会の答申について (非公開) (議案第16号 承認)</p>

<p>社会教育課長</p>	<p>議案第17号 令和3年度社会教育功労者の決定について (非公開) (議案第17号 承認)</p>
<p>4 その他 教育総務課長</p>	<p>なし</p>
<p>5 委員並び に教育長及 び課長報告</p>	<p>「県市町村教育委員会連絡協議会幹事会に出席して」</p>
<p>田原委員</p>	<p>10月22日(金)、鹿児島県市町村教育委員会連絡協議会幹事会に出席した。約1時間の会議であったが、令和3年度歳入歳出補正予算(案)が議題として提出された。コロナ禍のため各種行事が開けなかったことから、当初予算の市町村負担金の半額を各市町村に戻入し減額するという内容であった。その結果、垂水市の負担金8,900円は半額の4,450円となり、残りは払い戻されることになった。令和4年度の市町村負担金については、例年どおり8,900円ということであった。</p> <p>最後で時間に余裕があったので、出会者の市町の教育委員会の状況を報告することになった。私は垂水市のGIGAスクール構想について報告した。「市内全児童生徒が一人一台のタブレットを持ち、授業や学校行事の中で積極的に活用していること。先生方は授業のどのような場目でどのように活用すればいいかなど、日々挑戦しながら実践していること。教育委員会は研究授業や機器の支援者を通して、先生方のレベルアップを支援していること。」などを報告した。早速、薩摩川内市から「いじめや不登校が増えている。タブレット使用はいじめに繋がらないか。IDやパスワードの管理は大丈夫か。」などの質問があった。ちょうど、県外でそのような事件があったので聞かれたのではないかと思った。</p> <p>阿久根市の人からは、学校規模の適正化ということで、小学校が9校から3校へ、中学校が3校から2校へ統廃合される予定である旨の報告があった。保護者は統合に賛成だが、地域は児童生徒がいなくなるまで閉校にするなどの意見だと聞く。その委員としては、子供を中心に考えるべきではないかという意見を出されていた。</p> <p>曾於市の人からは、「コロナで行事が2年間中止になったことで、もう行事をなくしていこうとする方向になりがちであること。財部では地域からの要望でスムーズに学校統合ができた。」という報告があった。地域が纏まれば、統合もうまくいくなと思うことであった。</p> <p>霧島市からは、「期限付き講師が窃盗で逮捕され、それを受けて保護者会を実施し、現在信頼回復に努めていること。声掛け事案が頻繁に発生して</p>

いること。中学生が小学生を殴るという暴力事件が起こったこと。」などの報告がなされた。全体として、学校統合の報告が非常に参考になったように感じた。

「県民週間で水之上小学校と垂水中央中学校を訪問して」

県民週間ということで、11月5日（金）に水之上小学校と垂水中央中学校を訪問した。水之上小学校では、校長先生が案内してくださった。

5年生の理科の授業では、結果の考察のところで、早速タブレットを使って結果や結果から分かったことを記録して、先生の電子黒板に次々と送信していた。1, 2年生は、体育館での総合的な学習で、集めた木の実にきりで穴を開けて飾りを作っていた。さらに、木の実を投げて遊ぶゲーム器も作っていた。児童が「幼稚園生も来るんだよ。」と私に教えてくれた。水之上小学校では、子供たちがよく活動する授業を見せてもらった。

垂水中央中学校では、家庭科の授業で、男子生徒が白い糸の模様が付いた布に一生懸命に糸を通して刺繍をしていたのが印象的であった。また、理科の天体の授業を窓越しに見ていたが、先生は黒板一杯に板書した内容を生徒に丁寧に説明されていたが、このような授業をすれば子供はすぐに眠たくなるものである。もっとモデルを使うとか、有効な映像でもあれば、どの子にも分かる授業ができるのにと思いながら、廊下から授業を拝見していた。最近はもっとよい方法があるのではないかと考えて、自分も理科教諭だったので、昔はこんな授業をしていたかもと反省をすることだった。

「垂水の未来を描こう」事業計画について

葛迫委員

垂水経済同友クラブの事業計画で、「垂水の未来を描こう」という計画があったので参加した。まだ、作品は完成していないが、途中経過を報告する。新型コロナウイルス感染拡大が、なかなか収束の見通しが立たない中において、「夢のある未来の垂水市」について語り合い、そしてそれを絵に描いていく。新しい垂水市の情報発信ツールとしても活用していくために、垂水経済同友クラブは垂水中央中学校の創作部に私の指導・助言によって「30年後の垂水市」を描いてもらおうという計画を立てていた。作品発表は12月10日に行う予定である。9月の初めにこの話をいただき、早速9月17日（金）には垂水中央中学校の美術室で顧問の芝元先生を囲んでの第1回目の話し合いが行われた。私は、「まず、垂水市の現状と課題を考えてみましょう。そして、子供たちは、その現状と課題からひらめくものを搜してみる。ひらめいたものから何か創造してみる。そして、創造したものを絵に描いてみる。さらに、思いを伝えるためにはどう描いたらいいか考えてみる。このような手順で絵を描いてみましょう。」と顧問の芝元先生に提案した。また、作品の大きさや紙や絵具などの材料であるとか、パネルにするかしないかなども話し合いの内容であった。話し合いはそこで終わったが、中央中の生徒全員からコメントをいただくことにした。

2回目の話し合いは10月8日の金曜日、この時は、私と顧問の先生、商工会、経済同友クラブ4人の4者で話し合った。話し合いの場には、生徒から寄せられた情報のコメントや下絵などが数多く持ち込まれた。それは私にとって、非常に興味深い面白いものであった。市内の伝統芸能、猿ヶ

城の自然、垂水の温泉街、未来の乗り物であろう一人乗りの飛行機、デパートや高層ビルなど、「未来に残したいもの。未来に欲しいもの。」が言葉やスケッチで数多く寄せられた。私はその数多くの情報を、3人の経済同友クラブのスタッフの意見を聞きながら、一つの案にまとめ、伝えやすく分かりやすい構図にスケッチを試みて決めていった。また、作品の材料や大きさについては、ベニヤ板の大きさに作ったパネル二枚に水彩紙を水張りしたものにアクリル絵具で描くことになった。10月22日(金)には3回目の話し合いがあり、生徒たちが創り出したエスキース(下絵のこと)が出来上がってきた。このエスキースから、電車と高速道路の抑揚、電車のタルタル号をもう少し未来の乗り物に変えるなど、少し手直しをしてもらおうつもりでいる。今ここまで進んでいるが、現在、生徒たちは文化祭の準備で忙しくしているようである。

本日は欠席のため報告なし。

田之上委員

「市の陸上記録会について」

福里委員

10月29日に開催された市の陸上記録会を見学した。6年生の息子は60メートルハードルで参加した。60メートルハードルは選手種目ということで、息子も朝早く練習に行き、選手に選ばれていた。練習を一生懸命頑張っていたが、当日はベストタイムを出せずに結果は4人中4位であった。本人は、順位は気にしていなかったが、タイムがよくなかったことが相当ショックだったようである。帰りもすごく落ち込んでいたので、励まして訳を尋ねてみた。すると、記録会の最後の講評の中で、「ベストタイムを出せた人だけが、一所懸命練習を頑張った証拠だ。」という主旨の話をされた先生がいたらしく、その先生の話に息子は相当ショックを受けたようであった。私は息子に「悔しかったね。でも練習を一所懸命頑張ったことが実はすごい事なんだよ。」という話をした。息子はよっぽど悔しかったのか、そのことをその日の日記にも書いていて、担任の先生からは「努力は報われなかったけど、その事は全然無駄にはなっていないからね。」と言うようなコメントが書いてあった。最近、一つ一つの言葉にすごく反応する息子を見て、そろそろ難しい年頃になってきたなと感じている。

「垂水小学校の日曜参観に参加して」

11月7日に垂水小学校の日曜参観に参加した。1時間目から3時間目の授業ならどこでも参観できる形であった。1時間目は娘の跳び箱の授業、2時間目は息子のミニバレーの授業、3時間目は息子の社会と娘のクラスマッチを半分ずつ参観した。息子の社会の授業は、ロイロノートを使ってのタブレットの授業であった。先生は保護者の方に、「どうぞ中に入ってください。」と勧められていた。保護者の方々は、タブレットを使った授業を間近で見たことがないので、凄く興味を持たれていた。「わあ、今の子っていいね。」とか「私、今の子じゃなくてよかった。」とか「意外と難しいこと、やっているんだね。」とかいろいろな声が聞かれた。

息子の体育の授業は、ミニバレーだったが、先生が「3回で返さなくて

も4回でもいいよ。」と言われていたが、それでもラリーが続かないのか、今後は「ワンバウンドまでならいいよ。ワンバウンドしても、それを返せばいいから。」と言われていた。もうバレーではない状態。今の子供たちは、それぐらいしないとラリーが続かないのだなと思うことだった。皆、同じところに固まっていたりとか、それこそサーブも打てなかったり、パスにしても膝を使わず手だけでやったりとか、もう6年生なのにこんなに体力的に落ちているのかなと感じることであった。息子の先生は凄く細かい先生なので、授業を聞く姿勢なども細かく注意してくださって、保護者の方々は口々に「そこまでしてくださってありがたい。」と言われていた。最初はあまりにも細かすぎて息子もいっばいいいっばいのところもあったが、勉強だけでなく、身なり、生活習慣など、そういうところをきちんと声掛けしてくださる息子の先生は、親としてもとても有難いと思うことである。

教育長

私からは大きく三点のことを報告する。

まず、垂水小学校の大隅地区指定の研究公開の件である。外国語活動、外国語科の研究を2か年に渡ってやってもらい、その成果を10月22日に公開発表してもらった。大体60人ぐらいの参加者であった。

4年生が小平真央先生。もう大絶賛だった。学習のねらい、活動、子供の反応を含めてどれも素晴らしく、「これだと子供たちが英語好きになるはずだ。」という声があちこちで囁かれていた。外国語活動のリズム・テンポのよさ、それが外国語活動の魅力でもあるだろうが、学習の目的や活動内容がしっかりと子供に伝わっているということである。垂水小に新採として赴任して四年。彼女もよく頑張った。辛い時期もあっただろうが、それを乗り越えて力を付けてきた。私どもも学校教育課長と見ていたが、こちらまで楽しくなるようなよい授業だった。

5年生は教科・外国語科の授業でした。タブレット等を使った非常に工夫された授業ではあったが、少し子供から引き出すところ、あるいは、子供たちに考えさせる部分が弱かったのかなと感じた。しかし、収穫もいっばいあった。子供同士の英会話の様子を見せて、ジェスチャーがやはり大事だということ子供から引き出そうとされたのだが、自分で答えを言ってしまうところがあり、もったいないと思った。やはり子供に考えさせる発問であるとか、子供から考えを引き出すという授業は、よい授業だと私は思っている。とは言え、4年・5年いずれもよく頑張ってくれて、参加された先生からは、大変好評であった。とりわけ、教育事務所の先生方からは「素晴らしい研究公開だった。」とお褒めの言葉をいただいた。願わくば、これが中学校の英語へと繋がっていき、英語大好きな子供として、中学校でもまた一花咲かせてくれたらなと思っているところである。

次に、10月29日の陸上記録会の件である。一番のご褒美はよい天気であったことである。素晴らしい好天の下で記録会を開催することができた。私は、記録会の冒頭でオリンピックの話をするのであった。日本選手の活躍が、どれだけ日本国民に感動・元気・勇気を与えてくれたかということで、スポーツの魅力はそこにもあるわけである。オリンピックでも言われていた、「少しでも速く、少しでも高く、少しでも遠くへ。」という言葉

も使いながら、子供たちを励ましたところであった。

実際その競技の様子を見ていたが、これは私の受け止めなのであるが、以前私は、「コロナ禍で子供たちの運動能力に関しては落ちているのではないかと危惧する面がある。」という話をしたことがあるが、私の想定以上に子供たちは案外頑張っていたと思う。よく身体が動いていた。やはり、普段からの運動量の差が一方ではあるのかなという気がする。常日頃からどれだけ運動をやっているか、いないかで運動能力も体力も大きく変わっていくのかなという気がする。なので来年度は「一校一運動」の中身も精査して本当にそのやり方でいいのかという方法や内容を頻度も含めて検討したいと思っている。おそらくコロナは収束していくであろうから、まさに体力・運動能力を付けながら学力を付けていく、あるいは、心の安定を図っていくという、要はバランスが大事である。バランスのとれた教育を推進していくために、その根幹となる体力、運動能力をしっかり付けていきたいと思うことであった。

三点目が、地域が育むかごしまの教育、県民週間の件である。すべての小・中学校を学校教育課長と一緒に丁寧に見て回った。すべての小・中学校ですべての授業を見せてもらったが、その中で思ったことは、やはり学校はまだコロナに対して非常に感染対策が徹底されているということである。従って一番安全な場所であると思っている。時には密の状態があったのかもしれないが、それでもなお気を付けていた。また、時期的に学習発表会の時期とも重なってその練習をしている学校も結構多かった。協和小学校は、学習の場面を切り取って、それを発表しているところにたまたま参加させてもらったが、何か微笑ましくなるというか、ほっとするというか、学習成果の発表というのはいいなと思うことであった。あれはラップでしたか、国語の発表であったが、おもしろおかしくアレンジをしながらラップでやるというのが、今時で非常に面白いと思うことであった。各学校でいろいろな個性の出させ方があるのだなと思った。学校の主役である子供たちがやっぱり楽しそうに笑顔で教育に取り組んでいる姿、あるいは授業に一生懸命集中している姿に感動することであった。このことを裏返せば「一番の教師の仕事は、やはりよい授業を提供することにつきる。」ということである。よい授業を提供することで、子供は当然眠くならないし、集中し、自分の考えを持ち、発表もする。つまりいい流れができるわけである。教員は今一度何のために教員になったかを考えて欲しい。それは、よい授業をするためである。自分の専門性を生かしてよい授業をするためであるということ、私は強く強くこの県民週間を通して思うことであった。学校教育課長ともこのことを話しながら教育委員会への帰路についた。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

課長報告については、資料を提供しただけで、時間の関係上省略。

6 閉 会